学力向上アクションプラン

重点取組分野		具体的取組
生きて はたらく知		・「開かれた楽しい授業」に向け、重点研テーマ「一人も独りにしない学びを目指して」を設定し授業改善を図る。重点研では、各教科において、自分の考えをもち判断し、表現したいと思える学習場面を設定し、共に学び合う中で改題解決に向かい、多角的な考えをもてるようにする。
担当	研究研修部	

学力向上に関わる本校の状況

〇学力・学習状況調査からみる児童の実態
・昨年4月実施の横浜市学力・学習状況調査の結果では、学力はいずれの学年でも市平均を下回っている。これは、およそ教科を問わず、全体的に低い。また、横断的に結果を見ると、低下傾向にある。
・反対に、学習意識は全校で平均化され、市平均と同程度になっている。つまり、学習する価値や楽しさを感じている児童は少なくない。

〇本校の課題
　コロナ禍での学習形態や学習時間等も影響していると考えられるが、日常的な授業における確かな学びの保証が本校の課題と考える。すなわち、子供が学ぶ楽しさ、できる喜びを味わうことができるように、学びたくなる学習の課題、効果的な学習活動が適切に設定された授業を一つでも多く実施するよう努める。そのためには、その単元やその時間でどのような力を身に付けるのか明確にすることや、年間を通じてどの学習でどの力を身に付けるのかを考えて授業づくりに臨むように努めたい。

今年度の目標

その時間や単元で育成する資質能力は何か、子どもの姿でとらえた授業づくりを共有することで、子ども自身に確かな力の育成を目指す。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	〇　重点研究での国語科を中心とした授業力の向上を図る。 ・　国語科の授業における指導事項（資質・能力）を確認、理解し、授業を構想する姿勢を共有する。 ・　身に付けたい資質能力×言語活動×教材の三要素を意識して授業を構成し、具体的な活動、具体的な姿をもって育成する資質能力を想定する力を養う。 ・　そのためにも、課題設定からゴールの姿へつながる、言語活動を位置付けた課題解決的な単元づくりを考える。 ・　授業研究は、学年を基本単位として、言語活動の試行やモデル作成など上記の具体化を共同研究する。 〇　朝の学習タイムを活用し、学習内容の定着を図る。 〇　特別支援教室を設定し、TTや個別指導の機会の充実を図る。 〇　一人一台の端末を活かし、資質能力の育成につながる効果的なICT機器の利用を検討する。
下半期	〇　上記の取り組みを振り返りつつ継続する。 〇　主に研究授業を通じた学びを広げていくことを意識する。 ・その単元、その時間に身に付ける力（＝目標、ねらい、明確なB評価）を具体化する力を他教科・領域にも広げていく。 ・そのための支援を具体化する力や、子どもが取り組みたくなる単元構想・課題設定を練る力を話題にあげて検討していく。 　ここに、小田小の財産である「学び合い」についても、子どもの必要感と身に付けたい資質能力をもとに、どのように授業に位置付けていくか検討していく。ここから個別最適化な学びについての視点を得られるようにし、次年度につなげていく。 ・年間を見通したカリキュラムマネジメント力について話題に上がるようにする。